

思考力を高める川西の教育

「全国学力・学習状況調査」の結果と分析

4月17日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。教育委員会では、その結果と「児童生徒質問調査」の結果を踏まえた分析を行いました。

問 教育総務課 ☎ 0745 (44) 2684

令和7年度 全国学力・学習状況調査

日時 令和7年4月17日

対象 川西小学校6年生

教科 国語・算数・理科 ※理科は3年に1回実施

「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力」等を問う問題や、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる問題が出題されました。

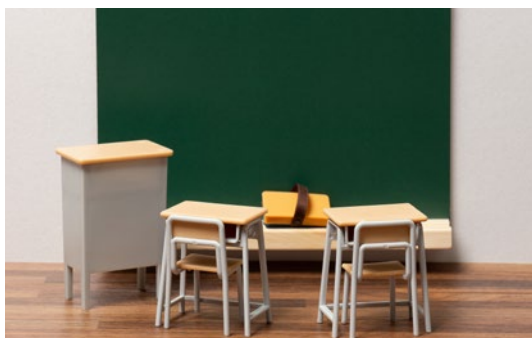
分析を踏まえて、学校教育の目標である「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「たくましい心身の育成」を追求し、「夢と希望にあふれ、いきいきとした子どもの育成」を目指して学校教育を改善していきます。



国語 (学習指導要領の領域別正答率)

領域	川西町	奈良県
①話すこと・聞くこと	53.0%	65.5%
②書くこと	65.7%	69.9%
③読むこと	54.5%	57.1%
④言葉の特徴・使い方	77.3%	78.2%
⑤情報の使い方	48.5%	63.3%
⑥我が国の言語文化	75.8%	81.9%

県の平均と比較して、低い正答率となりました。領域別正答率では①、⑤の項目が、特に低くなっています。①の問題では、話合いの場面やインタビュー場面で発言者の趣旨や理由をとらえることに課題が見られました。⑤の問題では、情報と情報の関連付けや図を使って語句と語句の関係を理解することに課題が見られ、その部分で無回答の率が高くなっています。



平均正答率 (平均正答数)

	川西町	奈良県	全国
国語 (14問)	61% (8.5問)	67% (9.4問)	66.8% (9.4問)
算数 (16問)	54% (8.6問)	58% (9.3問)	58.0% (9.3問)
理科 (17問)	51% (8.7問)	57% (9.7問)	57.1% (9.7問)

平均正答「率」だけを見ると少し残念に思えるかもしれませんが、平均正答「数」で比較すると1問程度もしくは1問未満の差です。基本的な内容を理解している児童も多くいます。

これからの学習に対して、「自分の考えを言葉や式で記述し、説明する力」「単に正解を出すだけでなく、なぜそうなるのかという思考の過程を表現する力」を伸ばすことを意識していくことが必要と考えられます。



児童質問調査の結果と分析

今回は、3つの調査項目と各教科の問題正答率から分析を行います。

1. 生活習慣と学力

毎日、朝食を食べていますか？ (各科目の正答率)

	国語	算数	理科
毎日食べている	65.8%	58.7%	55.0%
全く食べていない	31.0%	43.8%	33.3%

毎日、同じ時間に起きていますか？ (各科目の正答率)

	国語	算数	理科
起きている	68.1%	53.1%	53.8%
起きていない	21.4%	28.1%	19.1%

毎日、同じ時間に寝ていますか？ (各科目の正答率)

	国語	算数	理科
寝ている	63.5%	45.1%	48.0%
寝ていない	21.4%	29.7%	22.1%

「朝食を毎日食べる」「決まった時間に起きている」「決まった時間に寝ている」と回答した児童の正答率が、どの教科でも明らかに高いことがわかります。規則正しい生活習慣は学力向上につながる可能性が高いということが見てとれます。

「朝食を食べればいい」「決まった時間に寝起きすればいい」ということではなく、登校前に余裕を持って準備することが大切なのではないでしょうか。しっかりと朝食を摂ることができれば、頭や心身を目覚めさせて一日の活動の準備が整います。その準備が整えば、学校の授業への集中力や記憶力といった学習に必要な準備もできると考えられます。



算数 (学習指導要領の領域別正答率)

領域	川西町	奈良県
①数と計算	56.8%	62.5%
②図形	55.7%	57.2%
③測定	44.7%	53.1%
④変化と関係	51.0%	56.6%
⑤データの活用	57.0%	61.8%

全体的に、全国、奈良県と比較してわずかに低い正答率となりました。課題は⑤の問題で、目的に応じてグラフを選択して理由などを記述することでした。

①の問題では、分数の加法の計算はできる児童は多い一方で、分数の加法計算の方法を数や言葉を使って記述することができなかった児童が多くいました。

③の問題では、伴って変わる二つの数量に注目して知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。

また、普段の生活の中でスーパーの商品棚などでよく見かける「10%増量」の意味を説明できない児童が多くいました。

理科 (学習指導要領の領域別正答率)

領域	川西町	奈良県
①地球	57.3%	65.8%
②エネルギー	42.0%	45.5%
③粒子	43.7%	51.1%
④生命	50.0%	53.3%

どの領域でも県と比較して少し低位となりました。一方で、知識・技能を問う個々の問題では、正答率は高いものがありました。

課題は「実験結果を基に結論を導き出した理由を表現する」「実験の方法を発想して表現する」「差異点や共通点を基に新たな課題を見つけて表現する」などの問題で、正答率が低くなっていることです。

全国学力・学習状況調査とは？

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、次の3点を調査の目的としています。

- ①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証。その改善を図ります。
- ②学校での児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- ③取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

2. ICT機器の利用と学力

GIGAスクール構想も第2期に移行して、端末（PCやタブレットなど）の計画的な更新、AIの活用、通信ネットワークの改善などを通じて、個別最適化された質の高い学びの実現を目指しています。

（1）自分のペースで学習できる（平均正答率）

	国語	算数	理科
とてもそう思う・そう思う	64.4%	59.7%	56.2%
あまり思わない・思わない	44.8%	39.9%	30.9%

（2）画像・動画を活用してよくわかる（平均正答率）

	国語	算数	理科
とてもそう思う・そう思う	65.0%	56.7%	55.5%
あまり思わない・思わない	41.5%	43.2%	17.1%

（3）ICTを活用する自信に関する質問

領域	川西町	奈良県
①文章を作成することができる	75.8%	79.5%
②情報を集めることができる	82.3%	88.7%
③情報を整理できる	64.2%	64.2%
④プレゼンテーションを作成することができる	46.7%	71.5%

【用語 | GIGAスクール構想】

全国の小中学校に1人1台のPC・タブレット端末と高速大容量の通信ネットワーク環境を整備し、教育現場でICT（情報通信技術）を活用する取組をGIGAスクール構想といいます。その目的は、生徒1人ひとりの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、Society5.0時代を生きる子どもたちを育成することを目的としています。

今年の児童質問の「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか」という問いに対して、「とてもそう思う、そう思う」と回答した児童は82%いました。端末の使用に慣れ親しんでいることがわかります。

端末の利用で（1）（2）の質問への回答と各教科の正答率を見てみると、結果に大きな差が見られます。積極的・肯定的に端末を学習に使っている児童の正答率は高いようです。

「（3）ICTを活用する自信」に関する質問の回答を県と比較してみると、①、②、③の3項目は、県と比較して同等もしくは少し低い結果でした。④の問いでは、県と回答の差が24.8%も低い結果でした。

GIGAスクール構想の本来の目的は、単に端末を「使う」ことではなく、それを文房具のように活用して「創造的な学び」を実現することです。現在の児童の課題は、インプット（調べる）に比べてアウトプット（発表する）の経験が少ないことと予想されます。これを解決するため、端末を「調べものをする道具」から「自分の考えをまとめ、表現するための道具」へと、児童の意識と使い方をアップデートさせることがこれからの課題になります。



川西町のロゴマークのこの部分は、「教育に、ちかい町」を表現し、教育活動に重点的に取り組んでいることを示しています。

児童生徒質問調査とは？

全国学力学習状況調査と同時に行われています。この調査のねらいは、単なる知識や技能だけでなく、児童生徒の学習態度、学習意欲、学習方法、学習環境など、学力に影響を与える多角的な要因を把握することです。

学力テストの結果と合わせることで、総合的な視点で教育の質的向上を図ります。

3. 読書活動と学力

児童質問の中に、「平日の読書時間や読書は好きですか」という問いがあります。そこで、その問いと各教科の正答率の関係を見てみました（読書の対象として電子書籍は含みますが、教科書、雑誌などは含んでいません）。

平日「30分以上読む」児童と「全く読まない」児童の平均正答率には大きな差があり、「同じく読書が好き」と答えた児童の平均正答率も高くなるという結果が見られました。その傾向は国語だけに限らず、算数・理科でも顕著にみられました。

川西町では「思考力を高める川西の教育」を目指し、園・小学校・中学校・図書館との連携を進め、読書活動を大切に考えて教育活動を展開してきました。

しかし、ゲームやSNSでの動画やYouTubeの普及の影響もあり「読書は好きですか」と「平日の読書時間」の経年変化を調べてみると、右の表のようになりました。「読書が好きですか」の問いに「好き」と答えた児童の割合は、年々減少傾向にあり、令和7年度は当てはまらないと答えた児童との割合が逆転してしまいました。平日の読書時間は、1時間以上読書するという児童の割合は減少していますが、まったく読まないと回答した児童の割合は微減、1時間未満の児童は増加に転じていて、読書習慣の改善に少し期待が持てます。



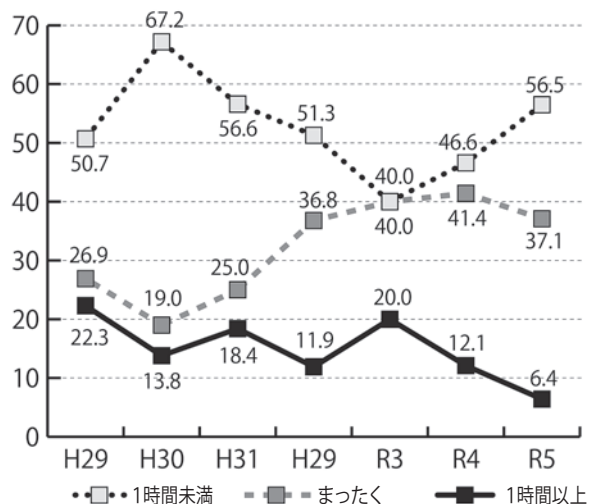
川西町のロゴマークのこの部分は、「読書に、ちかい町」を表現し、読書活動を推進していることを示しています。

今回の児童質問の結果から、読書が文章読解力に加え、論理的思考力や探究心といった教科横断的な学力の基盤を育む上で極めて有効であることが示されました。これまで川西町が大切にしてきた読書推進の取組を今後も継続するとともに、ただ読書時間を伸ばすことを目標にするのではなく、児童が「この本は面白い」と実感でき、体験できることを大切に取組を進めていきたいと考えます。



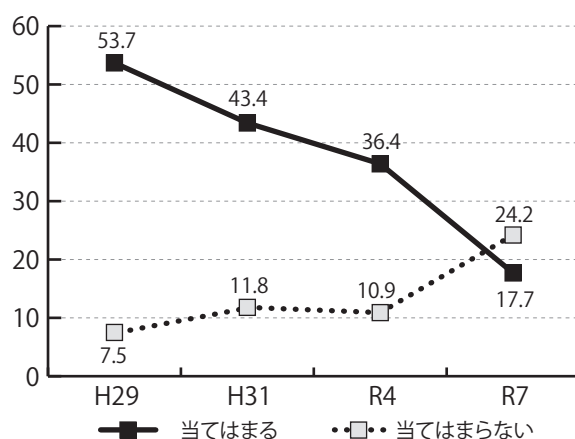
(1) 平日の読書時間 (平均正答率) ※「1日あたり」です。

	国語	算数	理科
30分以上	77.9%	72.9%	71.8%
まったく読まない	45.0%	40.8%	34.8%



(2) 読書は好きですか？ (平均正答率)

	国語	算数	理科
当てはまる	70.0%	62.0%	62.1%
当てはまらない	56.6%	48.2%	44.0%



本年度の調査結果を振り返って ～川西小学校～

川西小学校では、以前から1年生への副担任の配置や中学年での算数分割授業の実施などを通して「基礎的・基本的な知識・技能」の定着に力を注いできました。近年は「思考力・判断力・表現力」の向上も目指し、読書活動を中心とした言語活動の充実にも取り組んでいます。こうした取組に加え、社会科の指定校としての研究や文部科学省のリーディングDXスクール事業におけるICT活用など新たな挑戦も進めてまいりました。

今年度は「児童の心理的安全性を学級内で高めてこそ、落ち着いて学習に取り組むことができ、自己表現も可能になる。そのために学級会や学級活動以外の特別活動にも注力し、個々の児童が自分の学級に居場所を見いだせるような働きかけが必要である」との考えで職員が一致し、研究を推進しています。具体的には、研究テーマを「学級集団づくり」に設定し、県教育委員会に講師を依頼して研修を行うなど個々の教員の指導技能を高める取組を行っています。その一例として、児童が主体的に学級会を運営する手法を学び、自ら課題を見つけて話し合い学級目標を設定するとともに、それを校内でも共有し学校全体で目標達成に向けて取り組むという実践を進めています。

今年度の全国学力・学習状況調査では、国語で「話すこと、聞くこと」、算数で「実生活との関連」、理科で「探究の過程」に関する問題の出題が増えています。自ら課題を見つけ、既存の知識を活用して課題を解決する力を高めるためには、現在の取組に加えて、

- ・算数において、実際に操作しながら課題を解決する実体験を伴う活動を取り入れること
- ・自分の生活の中から、学習した内容に関する問題を作らせること
- ・自由研究や調べ学習を長期休業の課題として課すこと

などの活動を加えていくことが重要であると考え、今後の取組を進めていきたいと考えます。

この調査結果は、あくまでも学力の特定の一部であることや学校での教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。また、学校目標を達成するには、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。今回の公表を、教育への関心を高める機会としてください。

調査結果から 川西町の教育について考える ～川西教育委員会～

学校教育のスローガンは「思考力を高める川西の教育」です

①「確かな学力の育成」を目指します

「基礎的な知識・技能」、これらを活用した「思考力・判断力・表現力」等や主体的に学ぶ態度を大切にした「学習者が主体となる授業改善」に取り組む必要があります。具体的には、答えだけでなく「なぜそうなるのか」を自分の言葉や式で説明する場面を増やし、思考力と表現力を育てます。対話を通して自らの学びを深め広める「確かな学力の育成」の推進で学力向上を追求します。

②「豊かな人間性の育成」を目指します

豊かな人間性は、他の人を思いやる心や社会貢献の精神、生命や人権を尊重する心、正義感や公正を重んじる心、自律心や責任感です。共生社会を展望し、社会奉仕体験活動や自然体験活動等、豊かな体験的な学習活動の充実に努め、学校生活のあらゆる場面で「豊かな人間性の育成」を目指します。

③「地域と共にある学校・園づくり」を目指します

家庭や地域住民と共に子どもを育てていくという視点に立ち、お互いの立場を理解し、積極的に情報を共有しながら、子どもたちの豊かな育ちを協働で進めながら「地域と共にある学校・園づくり」を目指します。

川西の未来に向けて 保護者・地域の皆様へ

これからの学力とは、知識を活用し、自ら考え表現する力です。生活習慣を基盤とし、読書で思考力を、ICTで情報活用能力を養うことが鍵となります。

①1日のスタートを大切にしよう！

朝食をしっかり食べて、元気な一日にしよう。

②ルールを作ろう！

家庭学習の時間を毎日確保しよう。生活リズムとSNS等の長時間利用について考えてみよう。

③認めて、ほめて伸ばそう！

良いところを認め、諦めずに挑戦する強い心を育て、自ら課題を見付け、考え行動できる主体性を高めよう。

④読書習慣を定着させよう！

川西町立図書館も活用し、読み聞かせや家読（うちどく）で読書に親しみ、家族の会話を楽しもう。

⑤見守り、声をかけよう！

町ぐるみで「見守り・挨拶活動」を展開し、子どもたちを温かく見守ろう。